

九州保健福祉大学

第2期



中期目標・中期計画書  
(2019年度～2022年度)



# ブランド力の強化に向けて

## 九州保健福祉大学中期目標・中期計画

(2019年4月1日～2023年3月31日)

学長 高崎 眞弓

九州保健福祉大学は、2018年度に日本高等教育評価機構の「大学機関別認証評価」を受け、改善を要するとの指摘も少なく、良好な評価結果を受領しました。ただ口頭で、立派な設備をもち熱心に教育を行っているが「ブランド力」がない、との指摘がありました。

本学は延岡市との公私協力方式で設置された大学で、延岡市においては十分に知名度がありますが、宮崎県全域となるといまひとつ十分ではありません。当然、県外に知名度はありません。

本学は1999年に「医療・保健・福祉」に特化した大学として開学し、2019年に20周年を迎えました。当初の社会福祉学部と保健科学部の2学部6学科から、薬学部、生命医科学部を加えて4学部10学科に大学院を擁する総合大学に発展しました。「医療・保健・福祉」の大学として20年、「ブランド力」の強化はこれからです。

大学として初めて作成した中期目標・中期計画が、2016年度に始まり2018年度に終了し、最終結果をまとめ報告しました。今回は、2019年度から2022年度までの4年間の中期目標・中期計画です。アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの3つのポリシーを踏まえて、4年間に遂行する目標を掲げました。

教育力、募集力、研究力、地域連携力、および総合力について表記してありますが、特に教育力では「学修成果の可視化」に重点をおいてあります。

中期目標・中期計画の確実な施行によって、本学が全国にその名を知られる「ブランド力」を身につけることを期待したいと思います。



## 九州保健福祉大学（大学全体）

ビジョン (教育目標)	九保大だから学べる「みんなの幸せをプロデュースできる」あなたの能力を最大限に引き出し、引き伸ばす。	
大学からの メッセージ	みなさんには、それぞれ素晴らしい能力が備わっています。九州保健福祉大学は、建学の理念をもとに、あなたのその能力を最大限に引き出し、引き伸ばします。九州保健福祉大学は、入学後の基礎科目から卒業研究までをとおして自ら考える力を高め、あなた自身が自分の能力を見出し、その能力を最大限に引き伸ばすことをサポートしていきます。卒業後、「みんなの幸せをプロデュースできる」社会人となり、社会から高く評価される人材となれるように、九州保健福祉大学は、みなさんの持つ能力を最大限に引き出し、引き伸ばし、一人ひとりが素晴らしい未来を築けるように応援していきます。	
教育力 (ブランド力) 「学修成果の可視化」の 観点を 含む	全学共通目標	全学共通対策
	<p>【全学科共通の目標設定】</p> <p>学生目線： 国家試験合格等の専門資格の取得そして「自ら考える力を高め、高度な専門知識に加えて、人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）」を身につける。</p> <p>教員目線： 入学後の基礎科目から卒業研究までをとおして自ら考える力を高め、学生自身の能力を最大限に引き出し、社会から高く評価される人材に育てる。</p>	<p>【基本戦略の設定】</p> <p>本学教育の基本戦略は、学生の基礎・専門教育をとおして、自ら考え、そして、解決できる力を高めることにより、社会において高く評価される有為な人材を養成し、高校生から是非進学したいと思われる大学となるために「一人でも多く卒業させ、一人でも多く国家資格等を取得させる」ことを目指す。</p> <p>【基本戦術の設定】</p> <p>生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成できない。そこで、授業にアクティブラーニングを積極的に取り入れ、学生の考える力を高める。これらの教科をとおして、全学科の卒業研究のレベルアップを図る。また、卒業研究のみならず基礎・専門教育の理解には国語力が必要であるため、初年次での国語教育の取り組みが求められる。国語教育については、全学でe-learningシステム（すらら）を積極的に活用し、国語力の向上を図る。さらに、アクティブラーニングの推進とあわせ、国家試験に必要な知識の修得のための系統講義も重要であり、これらさまざまな形態の授業においても学生自身が知識や技能等の修得状況が把握できるように、学修成果の可視化に取り組んで行く。</p>
	<p>全学共通目標</p> <p>【学生自ら考える力のアップ】 アクティブラーニング導入必須科目の指定</p>	<p>全学共通（◆：全学科必須の取り組み ◇：学科の判断に委ねる） 以下の各項目に対し、学科内で実施責任者を指名する。（重複・複数可）</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策：全学共通科目として卒業研究を指定する。】</p> <p>アウトカム： 「学生自ら考える力を高め、高度な専門知識に加えて、人々の幸せをプロデュースできる能力を身に付ける」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学生がパフォーマンスを発揮しうる学修方法と環境 「学修方法」：アクティブラーニング 「環境」：卒業研究</li> <li>○ 学生がそのアウトカムに到達したか否かを評価する方法と基準の決定 評価の観点：問題点を見出し、その解決方法を自ら見出し、社会にアピールできるかどうか。</li> <li>○ コンピテンシー（アウトカムの実践に必要な具体的な「行為」） （学科内での卒論の指導方法および評価のばらつきをなくし、学生の考える力を高める。）</li> <li>○ 教育内容の改善および質保証を目的に学修成果の可視化 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 卒論の評価用ルーブリック表を各学部（学科）で作成する。</li> <li>◆ 評価用ルーブリックに基づき、卒業研究指導マニュアルを作成する。</li> <li>◆ 各学部において、学生の卒業研究発表会を義務付ける。</li> <li>◆ 各学科において卒業研究以外にもアクティブラーニング導入科目を増やす。</li> <li>◆ アセスメント・ポリシーの策定</li> </ul> </li> </ul>



<p>地域 連携力</p>	<p>【教員の地域連携力アップ対策】</p>	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 中核センター社会貢献部門が地域貢献活動の年次計画を策定する。</li> <li>◇ 公的機関等からの委員委嘱や講師依頼には積極的に受諾する。</li> </ul>
<p>総合力</p>		<p>【大学としての総合力を高めるための施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 建学の理念をもとに、教職員一丸となって3つのポリシーの実現を目指していく。</li> <li>◆ 地域にとって必要不可欠な大学として、常に本学の持つ教育・研究力の維持向上を目指していく。</li> </ul>



九州保健福祉大学 社会福祉学部 スポーツ健康福祉学科

2019年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる「スポーツで健康に生きる幸せ」をプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>スポーツ健康福祉学科の教育は、健康長寿社会の実現を目指して、スポーツ・健康・福祉そして東洋医学の視点からアプローチします。本学には「スポーツ健康福祉」と「鍼灸健康福祉」の2つのコースがあります。「スポーツ健康福祉コース」では、スポーツを基軸に健康、福祉、教育、コンディショニング等の専門知識を有する健康運動指導士やアスレティックトレーナー、保健体育教員、社会福祉士等を養成します。「鍼灸健康福祉コース」では、スポーツとともに、健康、福祉、コンディショニング等の専門知識を有するはり師・きゅう師を養成します。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、各コースの専門知識に加えて、人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。</p>
<p>教育力 (ブランド力) 「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p><b>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP&lt;4&gt;CP1&lt;5&gt;CP3&lt;11&gt;</b>          ・第1期中期計画で作成された卒業論文の評価基準をもとに、1年次の初年次教育からスポーツ社会福祉学演習、卒業研究へと段階的な学習計画を作成する。          ・卒業論文発表会へ1年次より参加し、スポーツ社会福祉学演習・卒業研究における研究テーマを検討する。          ・卒業論文発表会では3年生が「企画」、「運営」、「評価」、「課題発見・解決」と主体的に取り組めるよう、教員が補助する。</p> <p><b>【基礎国語力増進への対策】CP1&lt;1&gt;</b>          ・講義科目におけるe-learningシステム「すらら-国語」導入の長期運用の可能性を調査する。          ・積極的なe-learningシステム「すらら-国語」の活用を学生に推奨する。          ・e-learningシステム「すらら-国語」実施による学生の国語力の変化について調査・検討を行う。</p> <p><b>【国語以外のリメディアル教育への対策】CP1&lt;1&gt;</b>          ・既存のリメディアル教育の内容の調査・検討を行う。          ・e-learningシステム「すらら-数学・英語」について、学生が利用しやすい環境の整備を行う。          ・e-learningシステム「すらら-数学・英語」の活用を学生に推奨する。</p> <p><b>【国家試験合格率アップへの対策】CP2&lt;8&gt;</b>  <b>《はり師・きゅう師》</b>          ・新卒合格率100%を目指す。          ・新カリキュラム移行後の国家試験に対応した受験対策を模索する。          ・ロードマップの更新を行い、その年度における受験者全員の国家試験合格を目指す。  <b>《社会福祉士》</b>          ・学部で連携して可能な限り早期より模擬試験に取り組みせ、その結果を基に弱点を分析し、弱点を克服するための方策を練る。          ・新卒合格率の全国平均を常に上回ることを目指す。</p> <p><b>【学科教員の教育力アップの対策】CP1 CP2</b>          1. 授業の質を高める。          ・大学で実施されている教員相互の授業参観の推進を行う。          ・学生からの授業評価を受けて、教員が自らの授業の問題点を把握し、改善するための工夫について学科内で発表、検討を行う。          ・学部FD（教育部門）との連携を図り、研修の成果を教育に反映させる。          2. 適切な教育評価を実施するため、特にはり師・きゅう師の国家試験関連科目（専門分野）における定期試験問題を教員間で閲覧可能な体制を整える。          3. その他          ・各年度に実施した内容の結果・成果について検討し、年次改善が可能な体制を作る。</p>

	<p><b>【教育施設のレベルアップのための対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に対して教育施設・設備・備品への要望を調査し、実現可能な整備を行う。</li> <li>・体育館、グラウンドなどのスポーツ関連施設・設備・備品について、安全性等を調査し、整備する。</li> <li>・資格試験対策別（鍼灸・社福・教職・AT）の自習室を確保する。各部屋に試験対策の問題や書籍を常置する。</li> <li>・実習・実技科目において必要と考えられる設備・備品等について、費用対効果を踏まえて優先順位をつけ、順次整備を行う。さらに、既存の設備・備品等のより効果的な活用法について検討する。</li> </ul> <p><b>【就職率アップへの対策】DP</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動中の学生の取り組み状況や希望職種について把握し、就職活動を支援できる環境整備を行い、高い就職率を維持する。</li> <li>・キャリアサポートセンターの利用や就職懇談会への参加を引き続き促す。</li> <li>・キャリアサポートセンターと教員との連絡を密にとり、就職活動が遅れている学生の指導に役立てられる環境整備を行う。</li> </ul> <p><b>【学生生活サポート対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悩み（授業、部活動など）のある学生が、より相談しやすい体制を構築する。</li> <li>・学科会議において学生の状況を共有する。</li> <li>・学生同士、横の繋がりのみならず、縦の繋がりを築ける行事を開催する。 ※既に実施している、茶話会、合同交流会、運動会、宿泊研修等に加えて新たな行事を検討する。</li> </ul> <p><b>【退学者防止対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チューター時間(1回/月)、ゼミ指導時間(1回/週)を通じ、学生の学業への取組姿勢、出席状況、その他の学生生活状況を把握し、学生の学習意欲、心身面の健康状況をチェックする。</li> <li>・学科行事やゼミ活動等を通じ、異学年の学生や卒業生と交流の場を企画し、各学生が卒業までの過程をイメージした上で、卒業に向けたモチベーションを高く持ち学生生活に臨めるように学習環境を整える。</li> <li>・退学の意向を示す学生に対しては、チューターが個別に抱え込まず、学科教員全体で当該学生の課題解決、退学防止に向けた対策を考え、実施する。</li> </ul> <p><b>【学生指導力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チューター制度を活用し、学生の単位取得状況や生活状況を把握し、学生一人ひとりの状況に応じた適切な助言、指導を行う。また必要に応じて保護者や関係者へ連絡を行う。</li> <li>・学科教員全体で学生の情報を共有する。</li> </ul> <p><b>【社会人としてのマナー対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員から積極的に学生への挨拶を行い、模範を示す。</li> <li>・全学科教員が学生生活の様々な場面において、社会人としての態度や発言などのマナーについて必要な指導を行う。</li> <li>・学科行事やイベントを通して適切な態度を身につけさせる。</li> <li>・学外活動を通して、社会人としてのマナーを自覚させる。</li> </ul>
募集力	<p><b>【学科入学定員確保のための対策】AP</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○戦略的な募集活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生や在學生に進学に関する調査を行い、戦略的に広報活動を行う。</li> <li>・部活動単位での募集活動を行う。</li> <li>・女子学生の受験者数を増やす。</li> <li>・県別に高校の特徴を把握し、本学科への進学が見込めそうな高校に広報活動を重点的に行う。</li> </ul> </li> <li>○学内の施設・設備の整備を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ関連施設・設備を整備し、特色ある環境にすることで他大学との差別化を図る。</li> <li>・グラウンドやウェイトトレーニング場を段階的かつ継続的に整備し、高校生に魅力ある環境を整える。</li> </ul> </li> <li>○社会的ニーズに応じた教育力を上げる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・はり師・きゅう師やアスレティックトレーナー、健康運動指導士、教員免許等資格等の資格取得率を上げる</li> </ul> </li> </ul>

	<p>ため、対策講座や実践的研修を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の要請に応じて、教員が運動指導に出向いたり、アスレティックトレーナーを目指している学生を派遣したりすることで、より活発な交流を図る。</li> </ul> <p>○広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSを活用し、学生目線で一般市民へ大学をアピールする。</li> <li>・スポーツ関連の各種大会やイベントに教員やアスレティックトレーナーを目指している学生を派遣し、学科のPRを行う。</li> <li>・在学生が出身高校へ現況報告や実習挨拶を行う機会等を活用し、本学科のPRを行う。</li> <li>・スポーツ関連の各種大会やイベントに教員が赴き、学科のPRを行う。</li> </ul> <p>【学科の魅力発信】AP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣高校を中心に、出張授業の回数を増やし、学科の魅力を発信していく。</li> <li>・在学生・卒業生が近隣高校へ赴き、学科の魅力を発信する機会を検討する。</li> </ul>
研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科長が学科教員に対して、年間1本以上の論文作成を促す。</li> <li>・学科長が学位（博士号）未取得者に対して学位取得を促す。</li> <li>・最新知識および技術を習得するため、関連学会、各種セミナーへの参加を促し、その内容を教育などにフィードバックする。</li> <li>・各年度に実施した内容の結果・成果について検討し、年次改善が可能な体制を作る。</li> </ul> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存施設（機器備品を含む）の最大限の活性化および有効活用・共用化促進のために、「研究機器備品一覧」を作成する。</li> <li>・各年度に実施した内容の結果・成果について検討し、年次改善が可能な体制を作る。</li> </ul> <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研究部門と連携し、外部資金獲得関連FDへ積極的な参加を促す。</li> <li>・大学より各教員に配信される外部研究資金研究案内について、学科会議においても周知し、応募を促す。</li> <li>・各年度に実施した内容の結果・成果について検討し、年次改善が可能な体制を作る。</li> </ul>
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の依頼に応じたスポーツや健康に関する講演または講習会等を実施する。</li> <li>・地域との協力により、スポーツイベントを実施する。</li> <li>・地域の依頼に応じて、スポーツイベント等に学科教員を派遣する。</li> <li>・地域課題の解決を目的とし、地域の依頼に応じて、教員・学生による地域のスポーツや健康に関する調査研究を実施し、報告する。</li> <li>・地域の依頼に応じて、教員・学生を地域のイベントにボランティアとして派遣する。</li> </ul>
総合力	<p>公私協力方式で設置された本大学の使命のひとつは、地域へ学生を呼び込み（定員充足率）、建学の理念に基づいて教育し、社会に有為な人材として輩出することで地域社会の発展に寄与することである（各種試験合格率、就職率）。スポーツ健康福祉学科の「教育力」、「募集力」、「研究力」、「地域連携力」を本中期目標・中期計画により向上させ、それらを戦略的・有機的に統合することで、学科の総合力を高め、学生および地域にとって有益な価値を創造し、提供することを目指す（公表論文数、講習会等講師派遣数、地域連携事業数など）。</p>

九州保健福祉大学 社会福祉学部 臨床福祉学科

2019年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる「人の生き方を支える幸せ」をプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>臨床福祉学科の教育には、誰もが自分らしさを発揮し安心して暮らせる社会の実現を目指して、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士を育成する「臨床福祉」と、カウンセリングの専門性を有する心理・福祉の専門職を育成する「臨床心理」の2つの専攻がある。現在社会では、悩みや問題を抱える方の生活を支える福祉学と心を支える心理学の専門的な知識と技術を備えた人材がますます必要となっている。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、専門知識に加えて人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養する。</p>
<p>教育力 (ブランド力)</p> <p>「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p><b>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP(6) (7), CP(1-7) (2-1) (3-3)</b>  <b>■卒業研究評価用ルーブリックの導入の検討を進め、学科共通および専攻ごとの試案を作成し、試案に基づいた卒業研究指導のあり方を学科で共有したうえで指導を実践し、学生が自ら学ぶ力を十分に引き出すことのできる卒業研究発表会の実現を目指す。</b>  <b>■全ての講義において学科教育力を向上させるアクティブラーニングの導入を目指す。</b></p> <p>・卒業研究評価用のルーブリックの導入を検討する。アクティブラーニング実施科目における現状と課題の分析を行う。      その結果をもとに、導入可能なルーブリックの試案を作成し、卒業研究指導のあり方について学科で共通理解を行い実践し、最終的にはルーブリックに基づいた卒業研究発表会を開催する。      また、アクティブラーニング実施科目について拡大するとともに根幹をなすスモールグループディスカッションの効果的な実施方法について検討・評価・改善を並行して行う。</p> <p><b>【基礎国語力増進への対策】DP(3) (4) (5) (6), CP(3) (8)</b>  <b>■基礎演習および e-learning を活用した国語力増進プログラムを構築し、文章力・読解力の基礎を身につけ、専門書の内容理解やレポート報告書の作成、卒業論文の執筆ができるようにする。同時に論理的思考を身につける。</b></p> <p>・中期計画第1期では学生自身が積極的に e-learning による学習を進めることができなかった。初年度は学生が自発的に取り組む学習プログラムを再検討し試行し、計画的に検証し改善を行い、学習プログラムならびに学習効果の測定方法を構築する。</p> <p><b>【国語以外のリメディアル教育への対策】DP (6), CP(3) (8)</b>  <b>■統計や社会調査等のデータの取り扱いに際し必要となる数学的知識や操作スキルの習得プログラムの作成と導入方法の検討ならびに実施(福祉専攻)</b>  <b>■大学院進学希望者への受験対策として高校英語の再学習の機会を設け、語学力の増進を図る(心理専攻)</b></p> <p><b>【国家試験合格率アップへの対策】DP(3), CP(5)(6)(7)</b>  <b>■臨床福祉学科において社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の国家資格に関する知識、技術、価値を修得し、資格取得を目指すすべての学生が確実に国家試験に合格する。</b></p> <p>・学部共通科目である時事福祉学への受講を促す。      ・2年次から国家試験対策学習支援を実施する。      ・社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の国家試験合格率アップのためのロードマップを作成する。      ・1年次から資格関連科目授業において、資格取得の意義・意識づけを行う。</p>

・計画的に国家試験結果を振り返り、時事福祉学での国家試験対策の検討・評価・改善を行う。また、年度初めに模擬試験を実施し、2年次からの国家試験対策学習支援の成果を評価し、学習支援の方法を検討する。

**【学科教員の教育力アップの対策】CP**

■「学習成果の可視化」に向けた授業改善の仕組みの導入

- ・学部FDの積極的参加を促す。
- ・「学修成果の可視化」に向けた教員相互による授業改善の仕組みの検討・評価・改善を行う。

**【教育施設のレベルアップのための対策】DP(3)(6)(7)、CP(6)(8)**

■学生の学習場所を整備する。具体的には、4年間で学生が利用しやすい環境を作るため、学習資料やPC等の学習ツールを順次、設置する。

- ・学生の学習場所として4・5階の演習室を開放し、国家試験対策や単位認定試験対策等の学習の利用を促し、利用状況を確認する。
- ・演習室について修繕する物品(いす・机等)があれば、各演習室に関する窓口を設け、対応する。
- ・学生の学習場所(4・5階演習室)の利用状況を把握し、必要な設備を調査する。
- ・学生の学習場所(4・5階演習室)で学生が使用できる学習資料や学習ツール(インターネットが使えるPC等)を充実させる。

**【就職率アップへの対策】DP、CP(11)**

■就職率100%を達成するため、教員間の連携の下、学生の個性や多様性を尊重したニーズに添った就職支援を推進する。また、推進にあたっては、地域社会や福祉現場、保護者、関係機関・団体等との連携を強化し、人材ニーズ把握に努めるとともに、キャリア教育、就職支援体制の充実強化に努める。

- ・キャリアサポートセンターとの連携による支援体制の強化に向けた取組を行う。
- ・学生に対し、キャリアサポートセンターの積極的な活用を促すとともに、就職先情報を共有し個別指導に活かす。
- ・インターンシップへの積極的な参加を促す。
- ・就職面談会(本学、他機関実施)の情報把握と学生への参加を促す。

**【学生生活サポート対策】**

■学生の悩みを早期発見できる支援体制の構築。

- ・オフィスパワーだけではなく、相談やコミュニケーションがとりやすい環境を作る。
- ・チューターも含めた複数の教員で学生に寄り添い、不安や困りごとに対応する。
- ・学生の相談内容について、場合によっては学生課や学科で情報を共有し、安心・安全な生活を支援する体制を構築する。
- ・個々の取り組みについて検証するため、学科会において個々の教員がどのような工夫や支援を行ったか、また、学生がどのような生活課題を抱えているのかを共有し振り返りを行い、内容によっては教員だけではなく、専門職(カウンセリング・学生課等)と連携を図るシステムを構築する。

	<p><b>【中途退学者防止対策】CP(1) (5) (6)</b>  <b>■中途退学者ゼロに向けた支援体制の構築。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連続欠席者に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行う。</li> <li>・連続欠席者について、教員間で情報を共有し、早期対応を行う体制を構築する。</li> <li>・転学科してきた学生に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行う。</li> <li>・転学科してきた学生について、教員間で情報を共有し、早期対応を行う体制を構築する。</li> <li>・中途退学の学生の原因を分析し、対応策を検討する。</li> <li>・中途退学防止に有効であったと考えられる支援を教員間で共有する。</li> </ul> <p><b>【社会人としてのマナー対策】</b>  <b>■学科教員から学生に積極的な挨拶をする運動を推進する。</b>  <b>■各チューターやゼミ担当教員が、マナーについて学生の心構えについて確認し、大学生の生活の様々な場面で、社会が求めるマナーが身につくように必要な指導を実施する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員から学生へ積極的なあいさつ運動を実施し、チューター・ゼミ担当教員が普段から細やかな指導を行い、学生にどの程度のマナーが身についているかを教員間で確認する。初年度の施行の結果を基に、取り組みを検証したうえで、指導計画に修正を加え、試行を重ね、指導体制のさらなる充実を図る。</li> </ul>
募集力	<p><b>【学科入学定員確保のための対策】AP</b>  <b>■入試広報、教員との連携を進めて広報活動を活発にする。高校訪問、出前講座等を活用して社会福祉に興味関心を向けてもらえるよう働きかけ、指定校・推薦入試を中心に早期の入学希望者の増加につなげる。</b>  また、在学生の満足度の向上を目指し、退学を防止するとともに学生自らが本学科の魅力を発信したくなるような学科を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学科の教育理念、方針(社会福祉の必要性を基礎に)についてわかりやすく説明できるチラシ等の作成を行う。</li> <li>・入学者に対する入学動機、傾向を調査し結果を広報活動にいかす。</li> <li>・入試広報室と定期的に情報交換会を設け、広報活動のあり方を協議する。</li> <li>・在学生や卒業生が活躍している様子を出身校に伝える。</li> <li>・高校訪問、出張講義等を積極的に行い、本学科をアピールする。</li> </ul> <p><b>【学科の魅力発信】 AP</b>  <b>■大学生生活の魅力も含め、臨床福祉学科で学べることを多世代にわかりやすく伝える。宮崎県で唯一、専門的に社会福祉・心理が学べる大学として、宮崎県の社会福祉を支えてきた実績や、本学科の卒業生の幅広い活躍を発信する。また、本学科に在籍するからこそ経験できることも積極的に発信する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国家資格取得状況についてチラシ、ホームページ等を活用して発信する。</li> <li>・ホームページのブログを活用して、学科の近況をアップする。</li> <li>・保護者通信で在学生の様子や学科の取り組みを紹介する。</li> <li>・オープンキャンパスについて今までの内容を検証し、変更点も含めて検討する。</li> </ul>
研究力	<p><b>【学科教員の研究力アップのための対策】DP(4) (6) (7) ,CP(8)</b>  <b>■教員の研究力のレベルアップを図り、学術論文の数を増やす</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科教員間で研究力アップの仕組みを検討する。</li> <li>・研究力アップの仕組みを充実させ、研修等で周知する。</li> <li>・学術雑誌への積極的な投稿を促す。</li> </ul>

	<p>【研究施設のレベルアップのための対策】DP(1) (3) (7) ,CP(8)  <b>■研究に必要な施設の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な研究設備の調査。</li> <li>・研究施設充実のための資金調達の検討。</li> <li>・必要な教育研究整備を行う。</li> </ul> <p>【外部研究資金獲得のための対策】DP(1) (6) (7), CP(8)  <b>■科研費申請の増加を目指す</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部資金獲得に関する研修・FD等への参加を積極的に促す。</li> <li>・研修等で得た知識を活かして外部資金を獲得するための対策を立てる。</li> <li>・科研費や外部資金への積極的な申請を促す。</li> </ul>
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】  <b>■学科教員の専門知識・技術を地域に提供する機会を増やすとともに、地域との連携・協働事業を推進し、地域の活性化、地域課題の解決、生涯学習等に寄与できる教員の地域連携力をアップする。また、学生への教育力にも波及させる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員と自治体・関係機関・団体・学校との連携活動状況(連携協働事業、教員の専門知識・技術、研究成果の提供状況)を把握し、状況を教員間で共有するとともに、その成果を検証・分析し、連携関係の強化を図る</li> <li>・教員に期待される地域のニーズ・期待度を把握する(自治体・関係機関等)</li> <li>・連携推進に係る検討チームを設置し、地域の要請に応えられる相談窓口を検討する。</li> <li>・地域連携推進事業成果報告会を開催し、今後の方向性を検討する</li> </ul>
総合力	<p>【総合力】DP  <b>■臨床福祉学科の強みでもある、学生に寄り添った丁寧な指導・対応、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・公認心理師の国家資格、高校の教職(福祉)・認定心理士など多様な資格の養成、就職率 100%、これらをさらに充実させ、「福祉」や「心理」の専門職として社会に有用な人材が輩出できるよう教員一丸となって、教育・指導に取り組む。また、研究活動、地域貢献(学生を含めた地域活動を含む)を推進し、魅力ある学科づくりを目指す。臨床福祉学科の強みを基に、学生募集 PR を積極的に取り組み、入学定員充足率 100%を目指す。</b></p>

九州保健福祉大学 保健科学部 作業療法学科

2019年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる「たとえ障害があったとしても自分らしく生きていくことの幸せ」をプロデュースできる能力を身につける</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>作業療法学科の教育目標は、作業療法士国家試験合格のもっと先にあります。少子高齢化に伴う介護の問題、うつ病による自殺、障害者の雇用問題など、単に病気や障害への対応だけでは自分らしく生きていく事が難しいほど、生活困難の様が多様化しています。作業療法は健康面の問題でどのような状況に置かれても、常に心と身体のバランスに目を向け、その人らしく生きていく事を医療・福祉の側面から支えていきます。本学では、入学後の医学の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、患者さんに対し「病気や障害がある人も自分らしく輝いて生きていくこと」の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。</p>
<p>教育力 (ブランド力)  「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP          ・演習系座学系を問わず、ほとんどの科目でアクティブラーニングが用いられて授業遂行がなされているが、教員によってその手法はまちまちである。今後は、各教員の手法の共有化を行い改善点の抽出および手法の向上を図る。          ・各年次に実施される学外実習にルーブリック評価表を使用し、実習遂行結果を学生に提示する。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】AP(2)          ・キャリア教育や作業療法概論およびホームルームなどで当日学んだことを作文する時間を設け、書く力、まとめる力、読み解く力を養う。          ・国語のe-learning 結果を学生に提示する。</p> <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】AP(1)(5)          ・既存のリメディアル教育内容の検証を行う。          ・高校まで勉強経験のなかった学生が多く存在する。そのため教科書の読み方、ノートの取り方、勉強の仕方など勉強の仕方をいちから教える。</p> <p>【国家試験合格率アップへの対策】CP(1～3)          ・1年次から主体的に学習する機会の提供（放課後自主学習）を行い、同時に国家試験に必要な基礎科目(解剖学、生理学、運動学)を中心とした学習内容を行っていく。          ・各年次の特性（基礎学力が低い、全体的に意欲が低いなど）を勘案した学習方法を担当チューターが中心となって学科全体で話し合いながら国家試験対策を考えていく。          ・国家試験模試の結果を粗点グラフ、席次などで可視化した総合成績表を配布する。          ・規則正しい生活を常に指導する。          ・成績の振るわない学生に対して特別指導を行う。</p> <p>【学科教員の教育力アップの対策】          ・定期的な会議で授業内容および教授法の確認を行い、教育力の向上を図る。          ・日本作業療法協会が指定する教員の教育力向上研修や新しい評価方法の研修会に積極的に参加し、その内容を学科内にフィードバックする。また、学生の講義内容に反映するように教員間でコンセンサスを得ておく。          ・年1本以上の論文執筆を指導する。</p> <p>【教育施設のレベルアップのための対策】          ・文科省、厚労省の補助金情報を収集し、採択される可能性の高いものがあれば積極的に応募する。</p> <p>【就職率アップへの対策】          ・キャリアサポートセンターとの連携をとり、募集のため来学された施設には出来る限り対応する。</p>

	<p>【学生生活サポート対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悩みのある学生に対するカウンセリングの仕組みを充実させる。(保健室等の利用)</li> <li>・予防接種や自分自身の体の変調に気づくように、心身の病、感染症についての啓発活動を行う。</li> </ul> <p>【学生指導力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人面談の際にチューター以外の教員も参加し、面談過程および面談結果を共有し学生指導力の共有を図る。</li> </ul> <p>【社会人としてのマナー対策】CP(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次より各科目にて対人関係の第一歩である挨拶の大切さを教え、教員自ら学生への積極的な挨拶運動を実施する。</li> <li>・学外実習を契機として実習に出る前に、前社会人(1年生)、社会人(2年生)、前医療人(3年生)、医療人(4年生)としての倫理およびマナーを段階的に学ばせる。</li> </ul> <p>【学科の魅力発信】AP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の広報活動のほか、オープンキャンパス時、大学祭時など外部の人たちと触れ合う機会を有効に活用し、作業療法の魅力を伝える。</li> <li>・卒業生の動向(海外青年協力隊で活躍している卒業生や地域、病院で活躍している卒業生現状報告など)を高校への学校説明会、出前講義時に学生や進路指導の先生に伝える。</li> <li>・教員は社会貢献(地域)や研究などで外部に作業療法の魅力を啓発できる機会が多い。そのような機会に意識をもって作業療法の魅力を啓発する。</li> </ul>
募集力	
研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術論文 各教員が論文を少なくとも1篇以上投稿する。</li> <li>・学会発表 各教員が少なくとも1報以上発表する。</li> </ul> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な研究者やスタッフとの協働によるチーム型研究体制を図る。</li> <li>・博士号取得を推進する。</li> </ul> <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費等の競争的資金の申請を毎年行う。</li> </ul>
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康増進のための作業療法的提案を地域社会に発信する。</li> <li>・授業の一環として地域の障害児を招き、学生との交流を通して活動性や対人関係能力の育成の一助となる。</li> </ul>
総合力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディプロマポリシーである「有能な作業療法士として社会に貢献できうる実践力と、作業療法の発展に寄与できる研究能力を修得する」ことを目的に、カリキュラムポリシーに法って教育を展開する。</li> </ul>

九州保健福祉大学 保健科学部 言語聴覚療法学科

2019年度 第2期 中期目標・中期計画 (3つのポリシーを踏まえて)

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる「コミュニケーションする幸せ」と「口から食べる幸せ」をプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>言語聴覚療法学科の教育目標は、言語聴覚士国家試験合格のもと先にあります。現在、脳梗塞などでコミュニケーションが取れない、食事ができない高齢者や、コミュニケーション上のやり取りが不得手なお子さんが増えています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、「コミュニケーションができる」「口から食べられる」など、言語聴覚士として幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。</p>
<p>教育力 (ブランド力)</p> <p>「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>(2019～2022)</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP（6、7）、CP1（6）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議で卒業研究のルーブリックと成績評価について検討する。</li> <li>・学科会議で卒業研究の取組状況を確認し合い、全員の卒業論文完成を目指す。</li> <li>・卒業論文提出後、副査による査読や論文発表会を実施し、考える力、発表する力の向上を図る。</li> <li>・全学年の学生が実習指導者会議等の行事の運営に参加し、実習指導者への対応などについて自ら考え行動する力を養う。</li> </ul> <p>【基礎国語力増進への対策】CP（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前教育で国語力向上のためのプログラムを実施し、基礎国語力の増強を図る。</li> <li>・必修科目である基礎ゼミの講義内で e-learning を積極的に活用する。実施前後に試験を実施し、有用性を検討する。</li> </ul> <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前教育で国語に加えて生物を導入し、専門科目との連携を強化する。</li> </ul> <p>【国家試験合格率アップへの対策】CP2（9）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験対策部門で効果的な対策方法を検討・実施し、学科会議でその効果を検証する。</li> <li>・e-learning による国家試験対策ソフト「ST サプリ」を学生に提供し、模擬問題解答の機会を増やす。</li> <li>・国家試験部門を中心に、模試の成績不良学生を中心に特別プログラムや個別指導を行う。</li> <li>・学科会議で各学生の成績を提示し情報を共有する。</li> </ul> <p>【学科教員の教育力アップの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議等を通じ、基礎系科目と臨床系科目の内容を確認し教育目標を共有する。基礎系・臨床系教員の連携を強化する。</li> <li>・国家試験対策での補講等の取組内容を学科会議等で確認・共有し、各教員の教育力をアップする。</li> </ul> <p>【教育施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活コミュニケーション室、家庭生活コミュニケーション室等の設備やビデオ記録・配信システムを学内臨床実習等で活用する。</li> <li>・文科省・厚労省の補助金情報を収集し、採択される可能性の高いものがあれば積極的に応募し、学内施設の整備に利用する。</li> </ul> <p>【就職率アップへの対策】DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履歴書作成指導や模擬面接等を通じて、全ての学生が希望する施設へ就職できるよう、キャリアサポートセンターと連携を取りながら、きめ細かい指導を行う。</li> <li>・「即戦力の九保大生」「印象の良い九保大生」を求人側施設にアピールできるよう、学生の臨床教育を行う。</li> <li>・低学年からインターンシップを導入し、キャリアイメージを早期から形成できるよう支援し、就職率アップにつなげる。</li> </ul> <p>【学生生活サポート対策】CP2（11）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的なチューター面談を実施し、学生の情報を学科会議で報告して教員間で共有する。</li> <li>・学生の学力の把握を常時行い、必要に応じてチューターからの指導を実施する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の適性やモチベーションに応じた指導を行う。</li> <li>・学生の意見を教育内容や方法に反映させ満足度の向上を図る。</li> </ul> <p>【退学者防止対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生がかかえる問題を早期に発見し、健康管理センターと連携して適切に対応する。</li> <li>・発達障害や精神疾患に対する知識や対応方法を向上するための研修を、学科内 FD 研修として行う。</li> <li>・障害学生支援部門で発達障害等への支援システムを検討し、学科会議で支援方法を提案する。</li> </ul> <p>【学生指導力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前教育、「すらら」、基礎ゼミ等を通して、基礎学力を向上させ学力不足を解消する。</li> <li>・1、2 年次に見学実習を導入し、早期から言語聴覚士の魅力を知るための手段を構築する。</li> <li>・基礎ゼミ、学内臨床実習等でポートフォリオを導入し学習成果の可視化を図る。</li> <li>・国家試験対策で各教員による個別指導を積極的に取り入れ、模擬試験の平均点アップにつなげる。</li> <li>・経済的な問題がある学生には各種奨学金を勧める。</li> </ul> <p>【社会人としてのマナー対策】DP 1、CP 1（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内臨床実習を通して、臨床に必要な基本的態度、患者への関わり方について具体的指導を行う。</li> <li>・学内実習の一環として、一般企業へのお見学実習、高齢者施設、小児施設での見学実習を行い、社会人としてのマナーを身につけさせる。</li> </ul>
募集力	<p>【学科の魅力発信】AP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高生の学科見学、高校や病院からの模擬講義、出張講義に積極的に対応する。</li> <li>・9月1日の「言語聴覚の日」イベントの運営、言語聴覚障害者相談システム「ハロー」における支援を通じ、地域への発信を積極的に行う。</li> <li>・学科新聞の発行、ブログの更新、「言語聴覚の日」のイベント等を通して学科の魅力を発信する。</li> <li>・社会で活躍している卒業生の情報を収集し、オープンキャンパスなどで紹介する。</li> </ul>
研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会への参加等、研究活動に必要な研修の機会を保障する。</li> <li>・学会発表、論文発表等、研究活動を積極的に推進する。</li> </ul> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語聴覚障害者相談システム「ハロー」等、学内の施設を活用するとともに、医療、保健、福祉、教育機関との連携を強化し、研究フィールドの充実・拡大を図る。</li> </ul> <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費の獲得率の向上を図る。</li> <li>・その他の委託研究費の獲得率の向上を図る。</li> </ul>
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国や地方公共団体の各種委員会の委員として、発達支援、就学支援、地域包括支援等に貢献する。</li> <li>・地方公共団体からの委託費による研究をとおして地域連携力の向上を図る。</li> <li>・学会等、関連団体の役員として、地域・社会貢献を行う。</li> </ul>
総合力	<p>建学の理念およびディプロマポリシー（DP）に掲げた目標を達成するために、カリキュラムポリシー（CP）の教育内容 1～6 と教育方法 7～11 を取り入れた授業を実施し教育評価 12～13 を行う。本学科の特徴である基礎系教員と臨床系教員の連携を活かして、教員の教育力や学生の満足度の向上を図る。効果的な臨床教育プログラムについて学科会議等で検討・実施し、その成果を検証する。「コミュニケーションする幸せ」と「口から食べる幸せ」をプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を育成するため、中期目標・中期計画の達成・実現に向けて、学科教員一丸となって取り組む。</p>

九州保健福祉大学 保健科学部 視機能療法学科

2019年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる 「みる・みえる幸せ」をプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>視機能療法学科の教育目標は、視能訓練士国家試験合格のもっと先にあります。現在、高齢化社会が進み視力障害や眼疾患で悩む患者さんが多くなっています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、高度な眼科医療を支える専門知識に加えて、患者さんの「みる」「みえる」幸せをプロデュースできる能力(知識・技能・思考力・態度)を涵養します。</p>
<p>教育力 (ブランドカ)  「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>(H31) 教育力の可視化 【学生自ら考える力のアップへの対策】 DP (2) (5) CP (4) (5) (8) (10) ・学科ディプロマ・ポリシーまたカリキュラム・ポリシーの学生への周知徹底を図り、両ポリシーを踏まえた教育力の可視化に取り組む。具体的には、学生が視能訓練士となる学びの段階を意識して学習を進めることができるように、アセスメントポリシーを明確化して全学生に周知する。 ・シラバスの記載内容が学生の主体的な学びをサポートしているか、ディプロマ・ポリシーまたカリキュラム・ポリシーとの関係性から検証する。 ・卒業研究を充実させるために、指導マニュアルを教員間で共有すると共に客観的評価ができるよう28年度に作成した卒業研究のルーブリック表の改定版を完成させる。 ・実習講義(臨床実習事前指導)において学生が独自に検査マニュアルを作成することを目標にアクティブラーニング(①個別での文献調査 ②グループ内でのプレゼンテーションとディスカッション ③意見集約 ④全体へのプレゼンテーション ⑤検査マニュアルの作成と配布)を実施する。  【基礎国語力増進への対策】 CP (1) ・専門ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲにおいてゼミ単位の文献抄読会を実施する。卒業論文を作成するためには、関連分野の論文を正確に解釈および批評する力が必要である。この力を増進することは、土台となる基礎国語力の増進にもつながると考えられる。  【国語以外のリメディアル教育への対策】 CP(1) (2) ・3~4年時生では、ゼミ単位の個別指導を実施する。 ・2~3年次生では、到達度の低い学生には、目標設定の再検討および、到達度クラス別の補講を実施し、効果測定を行う。  【国家試験合格率アップへの対策】 CP (4) (11) ・H30年度の国家試験を解くために必要な知識の整理から、本学科教務委員会とリンクし、国家試験出題基準対応表に漏れのない教育の実施確認を行う。 ・3年次生に対する早期国家試験対策の取り組みの効果測定により早期教育の検証と修正を行う。 ・国家試験対策マニュアルとロードマップを作成する。 ・模擬試験問題の水準を国家試験合格に合わせるために、過去に使用した模擬試験問題の内容の再検討を行い、より近年の出題傾向に即した模擬試験を実施する。  【学科教員の教育力アップの対策】 ・教員が教育の技法を高めるとともに、授業への取り組みを再考する機会となるように、講義、演習、実習およびグループワークなど様々な形態の授業について、教員相互の見学・参加を推進する。  ・講義内容や試験問題を相互に確認することで互いに高め合う。 ・教員間の専門知識を相互に提供しあうことで、教員の教育内容のレベルを向上させる。また、</p>

	<p>学会などで知りえた最新の情報なども併せて情報交換を行い、教育レベルを向上させる。</p> <p><b>【教育施設のレベルアップのための対策】 CP (4)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育設備を中心に拡充を図るために、文部科学省をはじめとして利用可能な補助金等があれば積極的な応募に向けて具体的に検討する。</li> <li>・新たな検査機器については、可能な限りメーカーのデモ機器を借り受け、学生に最新機器の取り扱いについて修得させる機会を増やす。</li> </ul> <p><b>【就職率アップへの対策】 DP (4) CP (4) (11)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の基本的な考えとして、キャリアサポート室を積極的に有効活用することを主体とし、戦略的に行われている各種の就職面談会や就職懇談会に積極的に参加する。</li> <li>・高い国家試験合格率を維持する。</li> </ul> <p><b>【学生生活サポート対策】 CP (9)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の相談内容に応じて、学内各部署（学生課、教務課等）への的確に誘導し、当該部署への連絡及び相談の連携を行う。</li> <li>・学生の授業への欠席状況を教員間で共有・把握し、早期にチューター面談及び保護者への連絡を実施し、学生の長期間無断欠席の回避を図る。</li> <li>・個別学習スペース（電気生理実習室等）を充実させ、いつでも勉強できる環境を整備する。</li> <li>・学生との対話を重視し、気楽に話せる環境を整備する。</li> <li>・学生から寄せられた情報はガルーンを活用し情報共有を行い、どの教員も対応できるような体制を整える。</li> </ul> <p><b>【中途退学者防止対策】 CP (1)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中途退学者の多くが、学力不足による単位不認定がきっかけとなることが多いため、基礎学力を向上させ専門教育へのスムーズな移行を図ることにより退学者減少につなげる。</li> <li>・定期的な実施できる学習相談窓口を設置する。</li> <li>・適切な進路相談により、退学希望者に対して転学部、転学科を勧めることができるようにする。</li> </ul> <p><b>【学生指導力の向上】 CP (9)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の価値観、気質、能力を配慮した指導や対応を行うことを目指す。</li> <li>・講義や実習、チューター面談を通して、学生個別の適性およびモチベーションを見極め、学生生活における問題の早期発見に努める。</li> </ul> <p><b>【社会人としてのマナー対策】 DP (1) CP (4) (5) (10)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員側から積極的に挨拶を行う。</li> <li>・誤った言葉の遣いがあった際はその都度注意する。</li> <li>・検査実習などにおいて丁寧な言葉遣いがあった際は良かった点を褒める。</li> <li>・実習室使用ルールおよび実習生としてのマナーの指導を低学年より実施する。</li> <li>・臨床実習前指導では医療従事者における接遇マナーの専門書を用い事例を交えた指導を実施する。</li> <li>・ボランティア活動の意義を学生へ説明し参加を促す。</li> <li>・学期毎に学生に対し身だしなみ、マナー、言葉遣いにおける目標を列挙させる。</li> <li>・身だしなみ、マナー、言葉遣いにおけるチェックリストを作成し、学生の自己評価表として活用する。</li> </ul> <p><b>【学科の魅力発信】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科教員の積極的な学会・講習会における発表にて九保大をアピールする。</li> </ul>
募集力	

研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <p>研究活動の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会や講習会への積極的参加</li> <li>・学術論文が学科から毎年少なくとも1報は発表する。</li> <li>・学会発表が学科から毎年少なくとも2報は発表する。</li> </ul> <p>【臨床技術の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院での継続的な研修および臨床業務への参加。</li> <li>・臨床経験を積む場、研究の場の1つとして、3歳児眼科健診などに積極的に参加する。</li> </ul>
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮崎県内4市町村（延岡市、美郷町、諸塚村、椎葉村）の三歳児健康診査における視機能検査業務、宮崎大学医学部附属病院および済生会日向病院における眼科検査業務、しろやま支援学校における視覚支援業務、延岡市民大学院における市民向け講座、のべおか子どもセンターにおける「子育て講話」など、地域市民の視覚の保健、医療、情報発信に寄与することで地域連携力アップを図る。</li> </ul>
総合力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディプロマポリシー（DP）の実現を念頭に、アセスメントポリシーを充実してカリキュラムポリシー（CP）の実践に取り組み、卒業まで一貫した統合教育を行う中で100%進級を目指すと共に、100%の国家試験合格率をキープする。</li> <li>・学科内の研究力の充実を目指し、研究成果を学外に発信し各種研究費の獲得や地域連携強化を図る。</li> </ul>

九州保健福祉大学 保健科学部 臨床工学科  
2019年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる「高度なチーム医療」を支え患者さんの幸せをプロデュースできる能力を身につけた社会に有為な人材を輩出する。</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>臨床工学科の教育目標は、臨床工学技士国家試験合格のもっと先にある。医療の高度化が進み、多くの医療機器が臨床で使用されており、いまや医療現場には工学知識を持つ臨床工学技士がますます重要になっている。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、チーム医療の一員として医師の指示のもとで生命維持管理装置の操作や、自らの判断で医療機器の保守・管理を行うなど、高度なチーム医療を支えるのみならず、患者さんの幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることを目標としている。また本学は、タイを中心とした ASEAN 諸国の大学ならびに病院との交流があり、毎年、臨床工学科の施設を中心とした研修を受け入れている。そのため海外の方との交流を通じ、グローバルな視点も養うことができる。</p>
<p>教育力 (ブランド力)</p> <p>「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p><b>【学生自ら考える力をアップする対策】</b> 従来の卒業研究指導法に加え、卒業研究指導時ならびに卒業研究発表会で使用するルーブリック表を作成し運用する。学科教員全員でルーブリック表の内容とその運用について検証を行い、必要があれば改訂を行う。また、卒業研究で優秀なものについては、研究成果を積極的に国内外での学術大会において発表させる。 アクティブラーニングについては、従来から PBL (project/problem based learning) 型、学生によるプレゼンテーション型の講義などを取り入れているが、これらの教科に加え、他の教科においても導入可能であるかを学科教員で協議する。 タイの2つの大学と教育提携をおこなっている。これらの大学より研修生を受け入れており、外国の学生との積極的な交流を通して価値観の多様性に触れることで、自ら考える力をアップさせる。  <ul style="list-style-type: none"> <li>■卒業研究指導に用いるルーブリック評価表の内容および運用方法について適時見直しをする。</li> <li>■卒業研究については学術大会へ参加できるよう指導を行う。</li> <li>■アクティブラーニングについては、導入科目を学科で新たに検討する。</li> <li>■教育提携校より研修生を受け入れる。</li> <li>■タマサー大学よりのダブルデグリーの申し入れを学園本部の指示に従い検討する。</li> </ul> <b>【基礎国語力増進への対策】</b> 教員監督のもとにスララを学習させる。一方、基礎数学である計算力向上にため従来どおり補講をおこなう。  <ul style="list-style-type: none"> <li>■スララを活用して国語力のアップを図る。</li> </ul> ①毎週木曜日の2限目にスララの e-learning を教員監督のもとに実施する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>■臨床工学科では工学系科目が7～8割を占めており計算力は必須であるので、計算力の低い学生についてトレーニングを実施する。</li> </ul> ①毎週夕方の時間を利用して計算力向上のための演習を実施する。  ②計算力の評価のために毎月評価試験を実施し、結果を学生へフィードバックする。 <b>【単位認定試験】</b> 単位認定試験については、主に前期・後期の15コマの講義終了後実施するが、大半の学生は15コマ終了時点での試験に臨む学習が不足している。したがって、15コマを前半と後半に分けて評価試験を実施し、その結果を学生へフィードバックし、重要項目の再学習を促し、学生の未習得科目の減少を目指す。  <ul style="list-style-type: none"> <li>■15コマの前半（約半数が終了した時点）と後半に分けて評価試験を実施する。</li> <li>■再試験等において所定の点数を獲得できない場合はレポートによる評価も実施する。</li> </ul> <b>【国家試験合格率アップへの対策】</b> 国家試験過去問題の活用方法の検討が重要であり学科内での国家試験データベースのバージョンアップを実施する。従来から4年生に対して実施している国家試験対策模試において、前期で各自の弱点科目を見つけさせ、前期終了後にこれを学習させる。後期の国家試験対策模試で学習状況、達成度を分析し、12月からの集中対策に活かす。  <ul style="list-style-type: none"> <li>■昨年度（平成31年度）の国家試験結果が100%であり、昨年の試験対策方法を踏襲する。</li> </ul> ①4～6月にかけて国家試験過去問をベースとした模擬試験を毎日50問実施と共に評価試験を毎月1回実施する。  ②毎回の擬試験終了後に出題問題の見直し（とくに不正解であった問題）を行わせることで、不得意科</p>

目の克服を図る。

③ 2～3人を1組のグループとしてのグループ学習を実施する。

④ 11月からの国家試験集中対策の受講とともに、毎年11～2月に3回実施される全国統一模擬試験（日本臨床工学技士教育施設協議会実施）を受験させ、学習状況の把握と達成度の分析を行う。

⑤ 3年次学生においても、全国統一模擬試験を実施し、国家試験対策への認識を深める。

#### 【卒業判定】

4年次の最終卒業判定については4年次前期までの必要単位数の取得とともに、卒業研究および全国で3回実施される全国統一模擬試験（日本臨床工学技士教育施設協議会編）を受験し、少なくとも1回以上60%ラインを超えていること。これを満たさない場合は、学科内における再試験を実施し判定をおこなう。

■ 全国統一模擬試験で少なくとも60%を超えることは国家試験合格の可能性の目安となるので、国家試験対策を踏襲する。

#### 【学科教員の教育力アップの対策】

最新医療の知識、技術を習得するため、関連学会や各種セミナーへ学科教員が参加できるような体制を構築する。また、他校や臨床現場より教員を招聘し、相互に講義手法についての意見交換を行う。

さらに、タイの大学との教員交流により多角的な教育力アップを図る。

■ 学科教員に対して、講義や学事に配慮しつつ、積極的な関連学会や各種セミナーへの参加を促す。

■ 他校および臨床現場の教員との意見交換を積極的に実施する。

① 交流を深めるために講義終了後に意見交換を行う機会を設ける。

#### 【学生生活サポート対策】

毎年8月に開催されるオープンキャンパスの前日に、学科で保護者懇談会を開催している。本懇談会では保護者と教員が直接問題点を話し合っており、これを通じて、保護者と教員が連携し、学生生活のサポートに活かす。近年、心身面に不調を来した学生が多いことから、学内の健康管理センターを積極的に利用する。

■ 保護者面談・懇親会への更なる参加を求める。

① 成績不良学生の保護者の参加が悪く、また学生が保護者に大学生活の現状を都合の良いように報告しており、教員と保護者の思惑に相違が見られる。そのため、特に成績不良学生の保護者に対し保護者面談の積極的な参加を促す。

■ 心身面に不調を来した学生は、教員へ相談しにくいと思われる。そこで、健康管理センターの使用を促すような案内（掲示物）を作成し、学科内の掲示板に掲示することを検討する。

#### 【学生指導力の向上】

基礎学力を上げ、学生の適正に応じた指導を実施し学力不足を解消する。成績不振の学生に対して、個別に学習指導、アドバイスを行えるような体制を構築しており、さらなる充実を図る。

成績不振の要因の一つに授業中のノート整理ができないことがあげられる。この対策として学科内で使用しているコーネルノート（コーネル大学開発）によるノート整理について個別指導を実施する。

#### 【社会人としてのマナー対策】

教員から学生への積極的な挨拶運動を実施することに学科の学生は全員挨拶ができるようになっていく。特に授業開始および終了後の挨拶は重要視している。また、当学科では3年生に対して、ソーシャルマナーインストラクタの資格（JAL 国際線キャビンアテンダント）を有する外部講師を招聘して、ソーシャルマナー講座を受講させている。

■ マナーに関する講義の受講後マナーが顕著に向上することにより、引き続きソーシャルマナー講座を開講する。

① 3年生に対し初回の病院実習前にマナー講座を受講させる。

② 各学年を通じて段階的にマナーを身につけさせることを目的として1年次、2年次にも取り入れる方向で調整する。

<p><b>募集力</b></p>	<p><b>【学科入学定員確保のための対策】</b>          学科の特徴を高校生および保護者へ直接アピールできる方策が重要であり、これらの機会があれば教員と在校生とで対応することが必須である。</p> <p><b>【学科の魅力発信】</b>          4年前より入学者が減少の一途をたどっている。九州圏内の臨床工学養成校が増加しことに原因があるが、宮崎県内の高等学校学生、特に近隣の高校からの受験者が少ないので入試広報と連携して高校訪問、「見学は何時でもOK」の見学会を積極的におこなう。          ①近隣の高校へ学科の魅力を発信するため、高校ごとに大学（施設）見学会を立案する。          ②宮崎県臨床工学技士会と連携協力し、職能団体として臨床工学技士の啓発活動を行う。</p> <p><b>【学科教育力の評価および広報活動への工夫の提案】</b>          ■教員相互の授業評価をおこない学科教育力の確認を実施する。          ■従来、臨床工学科ブログにおいて学生（2学年～4学年）が中心にブログを書いており、保護者、卒業生、高校生が閲覧しており継続して学生による学科教育内容を発信する。          ■学生による学科紹介のInstagramを立ち上げており継続して学科内の様子を発信していく。</p> <p><b>【社会で活躍している卒業生の情報を収集】</b>          現時点で9期生が卒業しており卒業生との連絡体制、また、臨床工学関連の博士課程前期生の卒業生（70数名）との連絡体制（同窓会）を構築し、学生募集への協力を依頼する。          ■卒業生が同窓会の発会を試みており、同窓生を通して本学科の情報発信をおこなう。          ■九州臨床工学技士会および宮崎県臨床工学技士会を通じ、高校・各種関連団体に臨床工学技士の職場体験プログラムを構築し臨床工学技士養成の重要性を啓発し学生確保に努める。</p> <p><b>【将来の展望】</b>          学生募集に影響することは、①国家試験合格率、②就職先・就職率、③学生による学科の評価が重要であることより、①、②に関しては従来の方法を踏襲し、③については、可能な限り学生に対して丁寧に接していく。また、海外からの留学生獲得も重要となってくることよりタイの教育提携校よりの留学生獲得を目指し収容定員の確保を目指す。          ■留学生獲得のための布石として研修生を受け入れる。</p> <p><b>【将来展望に関する情報および既存の情報紹介】</b>          学生募集のための高校訪問は重要ではあるが、直接的に高校生と接することができず高校生および保護者に対しては情報が伝わっておらず、①業者説明会や②インターネットを中心とした媒体での情報提供となることはやむを得ない。①、②を通じて作成している資料を配付していく。          ■依頼がある業者説明会に全て参加し高校生へ学科を紹介する。          ■学科紹介パンフレット（日本語、英語、中国語、タイ語）を修正し関連施設へ配布する。</p>
<p><b>研究力</b></p>	<p><b>【学科教員の研究力アップのための対策】</b></p> <p><b>【学会発表・学術論文】</b>          ■各教員の専門性にもとづき所属する学会にて年間1～2演題の研究成果を発表する。          ■専任教員については、学会発表にて成果が上がっているものを学術論文とし年間1編の投稿を目指す。          ■通信制大学院の学生を指導している教員については、大学院生を指導するとともに共同著者として学術論文に投稿する。</p> <p><b>【研究施設のレベルアップのための対策】</b>          ■研究設備については、すでに老朽化がはじまったおり経済的に学内でのレベルアップは困難であることより、外部資金が調達できた段階で検討する。</p> <p><b>【外部研究資金獲得のための対策】</b>          ■科学研究費申請にあたっては、複数の採択者の申請書をシェアして申請書作成の参考にし、採択されるようにする。          ■企業との共同研究を積極的におこない研究費の供給を受ける。</p>

<p><b>地域連携力</b></p>	<p><b>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</b></p> <p>臨床工学科は内閣府の地域活性化総合特区である「東九州メディカルバレープロジェクト」の人材育成を担当しており、タイを中心とした海外の医療従事者を日本の医療機器でトレーニング、日本製品が海外に普及しやすい土壌を宮崎県庁と作りつつある。また、本プロジェクトの一環として県内の医療機器企業と共同で新しい医療機器の開発も行っており、数億円規模の国家予算も獲得した。すでに開発は最終段階に来ており、今後本学科を中心とした地元企業とのさらなる連携が行われる。単に研究や教育のみではなく、実用化や医療の質向上に直結する貢献を行っているのが特徴である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■タイの大学から留学生受け入れ・本学科および地元地域連携で実習実施する（地元企業が医療機器</li> <li>■タイを含む ASEAN 各国から留学生受け入れ・本学科および地元地域連携で実習を実施する（地元企業との新規医療機器開発を拡大）。</li> </ul>
<p><b>総合力</b></p>	<p>教育力、募集力、研究力、地域連携力により、大学院教育も含めて教育連携システムの構築を目指し活動をおこなっている（下図）。学部卒業生が医療現場へ就職し、本学科生の臨床実習指導などを担うようになってきている。また、通信制大学院を卒業した70数名の臨床工学技士は、医療現場での指導者となっていることより、彼らが本学科出身の技士を指導して社会に有為な人材を育成するとともに、本学科卒業生や医療現場で前向きな臨床工学技士が、通信制大学院へ入学し高度専門教育を受け社会での指導者となり本学出身の技士の教育・技術レベルの高さをアピールしている。一方、臨床工学技士は本邦のみの医療職種制度であり、国策にしたがい ASEAN 地区で最も医療が進歩しているタイ国を中心に臨床工学技士制度を輸出する。その第1歩としてタマサー大学、キンモクート大学での実習施設構築への協力および研修生の受け入れをおこなってきた。次段会として両大学卒業生を本学科への留学するよう促しており、これが実現すると日本の臨床工学技士免許を持ったタイ人技士が本国で指導者となって行くことは明白であり、彼らとともに ASEAN 地区で本学のブランド力を構築することを目指す。</p> <div data-bbox="448 1025 1214 1480" data-label="Diagram"> </div>

九州保健福祉大学 薬学部 薬学科  
2019年度 第2期 中期目標・中期計画 (3つのポリシーを踏まえて)

ビジョン (教育目標)	九保大だから学べる「適正で安全な薬物療法」を支え患者さんの幸せをプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。
学科からのメッセージ	薬学科の教育目標は、薬剤師国家試験合格のもと先にあります。現在、薬物療法の高度化により、チーム医療の中で「薬の専門家」としての薬剤師の重要性がますます高まっています。また、現在の薬剤師は患者さんのフィジカルアセスメント（実際に患者さんの身体に触れながら、薬の効果や副作用の早期発見を行うこと）などを実施して最良の薬物療法を医師に提案することが求められています。本学では、入学後の基礎科目から5,6年次の卒業研究までを通して、広い視野で自ら考え、適正で安全な薬物療法を支え患者さんの幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。
教育力 (ブランド力)  「学修成果の可視化」の観点を含む	<p>教育力の可視化</p> <p>【学生の主体的な学びの対策】 DP (5)、CP1 (9)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生がゴールに向かう段階を意識し学習を進めることができるように、アセスメント・ポリシーを明確化して全学生に周知する。</li> <li>・ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーおよびアセスメント・ポリシーとの整合性を検証し、必要に応じポリシーを改訂する。</li> <li>・シラバスの記載内容が学生の主体的な学びをサポートしているか、各ポリシーとの関係性から検証する。</li> <li>・現行の卒業研究（特別研究Ⅰ、Ⅱ）ルーブリック評価について、観点・基準の妥当性および学生側の活用状況を検証する。</li> </ul> <p>【基礎国語力増進への対策】 CP1 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語力が必要な必修科目（理科系作文法Ⅰ・Ⅱ）の講義で e-learning を積極的に活用し、有用性の高い運用方法を検討する。</li> <li>・e-learning による国語の学習成果を可視化し、成績評価の一部として反映する。</li> <li>・統一試験での個々の学生の成績に合わせた効果的な学習項目を吟味する。</li> </ul> <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】 CP1 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存のリメディアル科目の科目構成および担当者の見直しを行う。</li> <li>・学習者の能力に合わせた効果的な学習項目と運用方法を吟味する。</li> <li>・リメディアル科目の効果的な学習方法を、学生が自ら見出すことができるように授業内容を検討する。</li> </ul> <p>【国家試験合格率アップへの対策】 CP2 (14)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬学総合演習試験の結果をもとに、弱点科目・項目などについて分析し、その科目・項目克服の方策を練る。</li> <li>・単位認定（卒業判定を含む）の厳格な基準を明示する。</li> <li>・出席管理の厳格化な運用を目指す。</li> <li>・6年生の各学習レベルに合わせた指導内容を検討する。</li> </ul> <p>【学科教員の教育力アップの対策】 CP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が教育の技法を高めるとともに、授業への取り組みを再考する機会となるように、講義、演習、実習およびグループワークなど様々な形態の授業について、教員相互の見学・参加を推進する。</li> <li>・教員を期限付きで国内外を含め適切な医療施設・機関にて研修させ、最新の業務内容等を大学にフィードバックする。</li> <li>・大学院生の学位取得率を改善させるため、各研究室のさらなる研究力アップを図る。</li> </ul> <p>【教育施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文科省・厚労省等の補助金情報を収集し、積極的に応募を促す体制を構築する。</li> </ul> <p>【就職率アップへの対策】 DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアサポートセンターを積極的に活用する仕組みを構築する。</li> <li>・社会人マナーやコミュニケーション能力の向上を目指した企画を模索する。</li> <li>・早期からキャリア教育を推進する。</li> </ul>

	<p><b>【学生生活サポート対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の相談内容に応じた学内各部署（学生課、教務課、保健センター等）との連携体制を構築し可視化する。</li> </ul> <p><b>【退学者防止対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の長期間無断欠席の回避を図るための学科内対策を構築する。</li> <li>・学生課やキャリアサポートセンターと協力・連携して学生へ奨学金等の推薦を通じた経済的支援体制を構築する。</li> <li>・縦断的な学生同士の繋がりを強化する体制を築く。</li> </ul> <p><b>【学生指導力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の価値観、気質、能力を配慮したきめの細かい指導や対応を行うことを目指す。</li> <li>・講義や実習、チューター面談を通して、学生個別の適性およびモチベーションを見極め、学生生活における問題の早期発見に努める。</li> </ul> <p><b>【社会人としてのマナー対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生へ積極的な挨拶を促し、学生間における挨拶・礼節の実行も含めて、各教科・実習の態度にその評価結果を反映させる。</li> <li>・ハラスメント委員を増員してチューター教員との関係を密にして、初期の問題行動を共有してハラスメント委員や学科長から即時個別指導を行う体制を構築する。</li> </ul>
募集力	<p><b>【学科入学定員確保のための対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、薬学科のアピールポイントをまとめ、高校訪問、土日見学会、オープンキャンパス等で活用する。</li> </ul> <p><b>【学科の魅力発信】 AP</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬学科志願者を増やすために、薬剤師の魅力ややりがい、将来の展望などに関する情報を積極的に収集し、中高生を中心に広く発信する（ニーズの拡大）。</li> <li>・学科教育力の高さを客観的に示すために、これまでの卒業生の成績や合格実績などのデータを整理し、数値化・可視化する（本学科のアピール）。</li> <li>・効果的な情報発信を行うために、入試広報用コンテンツを統一するとともに、学科のアピールポイントやFAQ等を学科教員間で共有する。</li> </ul>
研究力	<p><b>【学科教員の研究力アップのための対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術論文：筆頭著者あるいは責任著者が各講座・研究室教員である英語論文を、各講座・研究室単位で少なくとも毎年2報発表する。</li> <li>・学会発表：筆頭著者あるいは責任著者が各講座・研究室教員である学会発表を、各講座・研究室単位で少なくとも毎年4報発表する。</li> <li>・研究発表会：研究促進委員会を設立し、年3回、薬学棟各階の講座・研究室単位で学生を交えて研究発表会を行い、各講座・研究室の研究成果の進展度を可視化する。</li> <li>・可視化した研究力に基づいて、薬学科の研究費配分に反映するシステムを構築する。</li> <li>・薬学科講座・研究室間、あるいは、学科間での共同研究活動を推進する。</li> </ul> <p><b>【研究施設のレベルアップのための対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科内で共通機器や実習機器等の更新機器に優先順序を付けて、計画的に機器更新を図る体制を構築する。</li> <li>・大学内での高額共同研究機器の獲得やその共同使用・維持システムを構築する。</li> <li>・学科内の共通機器や実習機器等の管理者を明確にし、定期メンテナンス報告や研究成果を上げる効果的な使用法等についての情報を共有する。</li> <li>・学科内の共通機器室の掃除を定期的実施し、研究機器の不具合を確認するとともに実験室の環境美化保持に努める。</li> <li>・製造業者や代理店が企画する公開セミナーやWebセミナーに積極的に参加し、学会内に設置してある研究機器の活用例や関連最新機器の情報を広く収集する。</li> </ul> <p><b>【外部研究資金獲得のための対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費等の競争的資金や寄付・委任経理金等：これらの資金獲得のために、各講座、あるいは、研究室単位で毎年申請を行う。</li> </ul>

地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬学科の研究力を定期的に地域に開示・発信する。</li> <li>・開示した研究力を基盤とした地域連携産官学プロジェクトの構築を行う。</li> </ul>
総合力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドミッションポリシー（AP）に掲げている「信頼される有能な薬剤師」としての豊かな人間性と医療人としての高い潜在能力を有する専門職育成を目指して、精力的に学生募集を行い、定員充足を目指す。</li> <li>・ディプロマポリシー（DP）の実現を念頭に、アセスメントポリシーを充実してカリキュラムポリシー（CP）の実践に取り組み、卒業まで一貫した統合薬学教育を行う中で100%進級を目指す。</li> <li>・学科内の研究力の充実を目指し、研究成果を学外に発信し各種研究費の獲得や地域連携強化を図る。</li> </ul>

九州保健福祉大学 薬学部 動物生命薬科学科

2019年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる 「薬に強い動物・動物性食品の専門家」として人々の幸せをプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>動物生命薬科学科の教育目標は、動物看護師統一認定試験（将来の国家試験）合格や実験動物1級技術者認定試験合格のもっと先にあります。現在、“地域創生”に至る国策の一つとして、産業動物や食の安全とそれに基づく関連産業の発展が求められています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、動物、医薬品および動物性食品に関連した「薬に強い動物看護師」、「薬に強い実験動物技術者」、「動物・薬・食に詳しい学芸員」、「食品衛生管理者・食品衛生監視員」として活躍できる専門知識を習得すると共に、さらに人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。</p>
<p>教育力 (ブランド力)  「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>【学生の主体的な学びの対策】 DP CP1 〈2〉 CP1 〈3〉 CP1 〈4〉 CP2 〈8〉 CP3 〈15〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アセスメントポリシーを明確化して全学生に周知する。</li> <li>・ 飼育当番、臨床実習及び卒業研究について、問題解決能力を高める指導方法により学生の思考能力を高める。</li> <li>・ 卒業研究レポートのルーブリックを作成、運用する。</li> <li>・ 半期あるいは通年 GPA をチューター面談に活用し、学修成果を確認・指導する。</li> </ul> <p>【基礎国語力増進への対策】 CP1 〈1〉 CP2 〈10〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ e-learning（すらら - 国語）を積極的に活用し、学修成果を可視化、有用性を検討する。担当者は、適応時間数に合わせて学生に学習させる項目を吟味する。</li> <li>・ 科目「文学」により学生の国語力を高める。</li> </ul> <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】 CP1 〈6〉 CP2 〈10〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語は英語村の活用により実施</li> <li>1～4年生の学年ごとに週1回以上の定期的受講を推奨する。</li> </ul> <p>【資格試験合格率アップへの対策】 CP2 〈7〉 CP2 〈12〉 CP3 〈11〉</p> <p>認定動物看護師及び実験動物1、2級技術者の資格試験対策について全て対策が記載されている「学修マニュアル」に従って実施する。</p> <p>動物看護師統一認定試験受験対策については、作成したロードマップに従って実施する。</p> <p>【学科教員の教育力アップの対策】 CP1 CP2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学科 FD（学科教員研修会）を実施する。</li> <li>・ 授業に関する相互見学を勧奨する。</li> <li>・ 学位取得、論文作成並びに学会・研修会等への参加を推奨する。</li> </ul> <p>【教育施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科学研究費などの競争的外部資金に応募する。</li> <li>・ 認定動物看護師の公的資格化にむけて施設設備の整備を検討する。</li> </ul> <p>【就職率アップへの対策】 DP CP2 〈11〉 CP2 〈12〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当教員及びチューターの面談指導等を行う。</li> <li>・ キャリアサポートセンターとの連携を密に行う。</li> <li>・ インターンシップへの参加を促す。</li> <li>・ 公務員模擬試験を活用する。</li> </ul> <p>【学生生活サポート対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般に、チューターと担当学生が参加する研究室会や個別面談、又はこれに代わる方法により、チューターの学生に対する指導を実施する。</li> <li>・ 特定の学生には、保護者とのコミュニケーションを取りながら、健康管理センターを活用して学科長及び各チューターが指導する。</li> </ul>

	<p>【退学者防止対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務課並びに学生課と協力・連携、早期のチューター面談にて対策する。</li> <li>・チューター会は低学年と高学年との合同で開催し、学年間の縦断的交流を図る。</li> </ul> <p>【学生指導力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生がもつ諸問題に対して、保護者とのコミュニケーションを取りながら、学生一人ひとりの適正およびモチベーションを見極めた上で、適切な指導を行う。</li> </ul> <p>【社会人としてのマナー対策】 DP3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。</li> <li>・学外実習の事前指導及び飼育実習によりマナー対策を実施する。</li> </ul>
募集力	<p>【学科入学定員確保のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職、各種資格試験、大学院進学、留学などの実績を広報できるだけの教育を継続する。</li> <li>・これら実績を高校訪問、土日見学会、オープンキャンパス、入試広報パンフレットなどで活用する。</li> </ul> <p>【学科の魅力発信】 AP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職、資格試験、進学、留学などの実績を整理(数値化)・可視化し、広報活動に活用する。</li> <li>・野生動物教育プログラムを広報活動に活用する。</li> <li>・動物看護師の公的資格化に関する情報を広報活動に活用する。</li> <li>・フィリピン国立大学獣医学部への編入留学制度を広報活動に活用する。</li> <li>・社会で活躍している卒業生の情報を収集、広報活動に活用する。</li> </ul>
研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術論文発表、学会発表並びに学会・研究会への参加を推奨する。</li> <li>・学位(博士)取得を推奨する。</li> <li>・学科内あるいは他学科との共同研究活動を推進する。</li> </ul> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業セミナーあるいは学会・研究会等に参加し、最新研究機器の情報を広く収集する。</li> </ul> <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費などの競争的外部資金へ応募する。</li> </ul>
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施可能な地域連携プロジェクトの調査を行う。</li> <li>・市民大学講座などで本学科の教育・研究の成果などを発信する。</li> </ul>
総合力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディプロマポリシー(DP)に掲げている動物及び薬の専門職としての基礎的学力と、臨床、研究等の職業的現場に対応した知識・技能・態度を修得することができた人材育成を目指し、就職率、資格試験合格率を外部に発信できるだけの教育を継続する。</li> <li>・高い就職率並びに資格試験合格率、あるいはフィリピン国立大学獣医学部編入留学制度など、学科の魅力を学外に発信することで、入学定員の充足を目指す。</li> </ul>

九州保健福祉大学 生命医科学部 生命医科学科  
2019年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる「高度な倫理観と専門知識を持った臨床検査のスペシャリスト」として、人々の幸せをプロデュースできる能力を身につけた人材を養成・輩出する。</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>生命医科学科では、インターナショナルでグローバルな視野に立った教養と生命医科学の専門性の高い知識および技術を修得し、医療専門職たる細胞検査士、臨床検査技師または生命医科学者として活躍できうる実践力を有し、自律的行動力、問題解決能力、かつ自己研鑽力などを身につけた人に対して学位を授与するというディプロマ・ポリシーを掲げている。すなわち、細胞検査士認定試験や臨床検査技師国家試験に合格することはもちろん、その後社会に出て、患者様からも医療従事者からも、あるいは研究者からも信頼され、尊敬されるような人材を育成することを目指す。</p>
<p>教育力 (ブランド力)</p> <p>「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>教育力の可視化</p> <p><b>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP(4,5)、CP1(3,5)</b></p> <p>卒論評価用ルーブリックの策定し、実施計画を立案する。具体的には、卒論評価用ルーブリックの作成、卒業評価用ルーブリックに基づいた卒業研究指導マニュアルの作成、卒業研究発表会の計画立案などを実施する。現在実施している卒業研究発表においては、内容とともにプレゼンテーション技術の向上も図れるよう計画を立てる。</p> <p>実習または演習科目で積極的にアクティブラーニングを導入する。現在アクティブラーニングを実施している臨床免疫学実習Ⅰを継続しつつ、アクティブラーニングを採用する科目を積極的に増やす計画を策定する。その一環として系統講義をベースにアクティブラーニングを導入する手順を明確化する。アクティブラーニングを導入した科目は効果的なSGD(small group discussion)を計画し、グループごとに成果発表をさせる。学生が自ら学ぶための様々なアイデアをまとめ、具体的な指針案を策定する。</p> <p><b>【基礎国語力増進への対策】CP1(1)</b></p> <p>国語力増進を図るために、講義・実習で積極的なレポート作成を課し、提出させる。提出したレポートについては、必ず教員が添削しフィードバックする。</p> <p>さらに e-learning の「国語」を活用し、中学校から高校までの基礎的な国語を復習させる。</p> <p><b>【国語以外のリメディアル教育への対策】CP1(1,2)</b></p> <p>「リメディアル教育は、学生への「自立支援」が目的であり、学生の学力レベルに適合した、より身近なリメディアル教育実践の環境作りを行う」とする教育モデルを構築する。入学時から学力レベルの確認を実施しつつ、これに合った、基礎科学、選択科目の段階的受講モデルを学生に提案、推奨する。すなわち、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① e-learning「数学」:基礎科目「物理学」において活用する。</li> <li>② e-learning「英語」:基礎科目「英語Ⅰ」において活用する。</li> <li>③ 「化学」の基礎知識、基礎計算の学習:基礎科目「化学」及び「生化学」で積極的に実施する。</li> </ol>

④「生物学」の基礎知識の学習:基礎科目「生物学」及び「生化学」で積極的に実施する。

⑤「物理学」の基礎知識の学習:基礎科目「物理学」で積極的に実施する。

必要に応じて、担当教員が個別指導を実施するとともに、上級生から下級生への学生による学習サポート体制を構築する。

#### 【国家試験合格率アップへの対策】CP2(12)

##### ■国家試験対策の指導方針

①国家試験は200問中120点以上(60%)で合格であるが、近年、基礎を問う問題が多く出題される傾向にあり、1年次からの授業の内容が国家試験につながる。よって、新入生に対しても国家試験対策を十分意識させる。

②国家試験勉強では、暗記すべき項目・分野が多岐にわたることから、日々の授業をきちんと聴き、実習にも真面目に取り組む姿勢を徹底させる。

③本格的に国家試験対策の勉強を始めるのは臨床実習が終わってからとなる。出題傾向に若干の変化が見られたとしても、過去問をしっかり研究していれば、合格基準である60%に十分手が届く。そのために、間違った問題に対して、何故そのような経緯に至ったのかについて理解させる。

##### ■合格のための学習指導

①4年生進級時には、卒業研究と並行する形で、国家試験の主要7科目の基礎学力向上のための講義を展開し、合格に必要な基礎学力・学習方法を習得させる。

②国家試験の模擬試験を、学生の学力習熟度をみながら年間10回程度受験させ、チューターを中心によりきめ細やかな指導を行う。

#### 【学科教員の教育力アップの対策】CP

教員の教育力は学生の教科に対する理解に大きく影響し、ひいては国家試験や認定試験の合格に直結するのは自明の理である。教員が自身の教育力がどの程度のものであるのかを客観的に知ることは、なかなか難しいものがあるが、すでに当大学でも実施されている2つの項目、すなわち「学生アンケート」、および「他教員の講義の見学」を活用することで、それがある程度達成されるものと考えられる。

学生アンケートでは、個々の教員の講義について「良い点」と「悪い点」が率直に反映されている。個々の教員が、自身の評価だけではなく他の教員の評価も閲覧できる体制を取り、特に学生の評価の高い教員の講義を積極的に参観することを改めて周知徹底する。実際に参観することで、自身の講義の悪い点を虚心坦懐に分析し、他教員の良い部分を反映させ、教育力アップに努める。

ただ、学生の評価が教員の教育力の評価の全てではないことは事実である(厳しい教員には厳しい評価 etc.)。そこで、もう一つの指標として、国家試験や認定試験の「分野別の得点率」が挙

げられる。教育の成功は、学生の満足度以上に、アウトプット(結果)が重要である。例えば、非常に厳しい授業で学生の評価が低い科目であっても、最終のアウトプットである国家試験や認定試験の得点率が高ければ、その講義は成功であると評価できる。この分野別得点率の分析の各教員にフィードバックすることで、教育法の改善につなげていく試みを実施していく。

#### 【教育施設のレベルアップのための対策】

アクティブラーニング(AL)のための教員と学生、あるいは学生同士の活発なコミュニケーションの環境を構築する。グループワークのための適切なメンバー数と距離を持つ空間フレキシビリティを導入し、学生の五感に訴えかけるAL専用のスペースを整備する。具体的には、学習発表をスムーズに行うための大型スクリーンの設置、インタラクティブボードの設置、グループワークと個人学習のどちらにも最適化した勾玉型や台形型のテーブルを設置する。これらの環境整備には、設備投資が必要となる。文科省・厚労省等の補助金情報を収集し、積極的に応募を促す体制を整える。また、豊かな人間性と高度な倫理観・専門知識を持った臨床検査のスペシャリストを養成するためには、教育に必要な不可欠な医療機器等の更新、さらには教養図書および専門図書のさらなる充実化を図る。

#### 【就職率アップへの対策】DP

キャリアサポートセンターと綿密な連携関係を構築し、高い就職率を目標とする。宮崎県、九州地区、西日本の医療施設に、九州保健福祉大学生命医科学部生命医科学科の卒業生をアピールする方策を立案し、計画的に実施する。早期実施が可能な項目を洗い出し、できることから実施する。履歴書作製・面接対応などを指導する。特に、地域に関わらず細胞検査士・臨床検査技師が活躍できる医療施設へ積極的に出願するよう入学時より学生に指導する。

#### 【学生生活サポート対策】

生命医科学科の学生生活の指針を策定する。4月の新入生ガイダンスで、入学生に生命医科学科の学生生活の指針を提示し、それを徹底する。学生課、教務課、健康管理センターほかとの連携をはかる。チューターを中心に学科教員全員が個々の学生の動向に注意を払う。特に昨年より実施している、欠席や遅刻の頻度の高い学生の「学科全体」でのフォロー等について継続的に取り組む。また、定期的に学生に対して学科独自のアンケートを実施して、問題点の洗い出しを行い、可能な限り、善処する。

これらの情報は学科全員の教員で共有し、新入生から4年生の全員卒業を目指す。

学生に健康管理センターほかの相談窓口を周知徹底する。4月の新入生ガイダンスで、メンタルヘルス(メンタル症状)を紹介する時間を設ける。学科教員が積極的に生命医科学科の学生に声をかけるようにする。今後はアーリー・エクスポージャーを1年生の内に取り入れ、将来を見据えた具体的な将来像としての臨床検査技師を意識させたい。

#### 【学生指導力の向上】

① エビデンスに基づく「早期支援システム」のPDCAサイクルを強化する。

	<p>② 基礎学力の向上と、学力不足を解消するために、入学前にアドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを基盤にしてロジカル・コミュニケーションやeラーニング教育を積極的に導入し、初年次の基礎学力教育に力を入れる。さらに、専門教科との接続をはかる。</p> <p>③ 入学後にコーチング・フォローの徹底化をはかる。</p> <p>④ 専門課程では演習形式の授業を積極的に行い、アクティブラーニング型授業を取り入れ、ステップワイズ的にアセスメント・ポリシーを導入する。</p> <p>⑤ 情報の共有や学部・部門間での連携を強化すると共に、地区別懇談会を積極的に利用して、学生の実情を報告し保護者連携の充実化をはかる。</p> <p>⑥ 「寄り添い型」学生支援の取り組みとして、チューターまたは学科教員は学生からよく話を聞くことを徹底し、保護者と連絡をとり情報・状況を共有した上で、その学生にとって最善の解決方法を模索する。</p> <p>⑦ 退学予備軍をサーチすると共に、退学リスクやパーソナリティー診断を実施する。</p> <p>⑧ 学生一人ひとりの適正およびモチベーションを見極めた上で適切な指導を行う。</p> <p><b>【社会人としてのマナー対策】</b></p> <p>① 入学時から社会人、特に医療従事者には挨拶が必須であることを意識するよう指導する。</p> <p>② 目上や教員だけではなく、学生間でも挨拶することの大切さを身に着けさせる。</p> <p>③ 講義、実習だけではなく、生活全般で時間厳守を心がけるよう指導し、自らの責任や協調することの大切さを理解させる。</p> <p>④ 学科の全学生を対象として社会人としてのマナー対策の講習会を開催する。具体的には、基本マナー、挨拶の仕方、敬語の使い方、メールの書き方、お礼状の書き方、呼称、話の聞き方ほか。マナー対策講習会に基づいて、日々の生活の中で、各専任教員が気がついた時に個々の学生に注意する。</p> <p>⑤ その他、社会におけるマナーへの認識を折に触れ教員がフォローし、必要な指導を行う。</p>
募集力	<p><b>【学科入学定員確保のための対策】</b></p> <p>本学科の最大の特徴は、本来、大学卒業後、実務経験を積んだ臨床検査技師でなければ取得することのできない細胞検査士資格を臨床検査技師と同時に4年間で取得できることにある。また、細胞検査士資格の取得に関しては、九州の4年制大学では本学科が唯一の存在である。上記のように本学科は既に「キラリと光る！オンリーワン！」の特質を有しており、このユニークな特徴を周知することにより入学定員の確保を果たすことができると考えられる。</p> <p>しかしながら、学科設置から既に4年間が経過したが、本学科の十二分な魅力があると考えられる特質は未だ周知されているとは言い難いのが現状である。</p> <p>本学科の特徴を周知するため学科内はもとより、入試広報をはじめとする事務部門とも十分な連携を図り、様々な機会を利用する。具体的には高等学校、中学などの教育機関、あるいは様々な団体による大学見学。高校訪問、学会や地域のイベントへの積極的な参加などである。また、現代の広報活動で重要な役割を持つホームページの拡充も計画している。</p>

学科教育力は入学定員確保において非常に重要であることから、学科教育力の向上を図り、学科教育力の高さも積極的に発信していく。

【学科の魅力発信】 AP

- ① 学科教育力の評価を行うとともに、広報活動の工夫を提案する。
- ② 臨床検査技師国家試験や細胞検査士認定試験の合格率、合格者数等は学科教育力を評価する尺度として重要であることは言うまでもないが、高等教育機関である大学の教育力として、教育の基盤をなす研究力も重要である。ユニークかつ高度な研究は、学科の魅力でもある。また、これらの研究の一端を学生に触れさせることにより研究、学習意欲の向上が図られるもの多考える。さらには大学院への進学等を志す学生が多数存在することは、学科の魅力を示す一例である。従って、これらの実績を評価し、長所を伸ばし、問題点には改善策を実施しさらなる向上を図る。
- ③ さらに、これらの実績を様々な形で公表することが重要であると考え。また、大学見学、高校訪問、ホームページの充実以外の広報活動についても検討し実施する。
- ④ 社会で活躍している卒業生の情報を収集する。
- ⑤ 将来の展望をまとめる。
- ⑥ それらの情報および既存の情報(現在行っている広報材料)を、西日本を中心に紹介する。

研究力

【学科教員の研究力アップのための対策】

・学術論文／学会発表

研究活動を進める過程での「学術論文」と「学会発表」は、連続的な成果報告の形として捉えられる。例えば、「学会発表」において経過報告を積み重ね、最終成果報告として「学術論文」を完成させる場合、最終的な「学術論文」までのモチベーション維持の手段として「学会発表」における学習やディスカッションが大きく貢献すると考えられる。また、日常的な研究活動が続く中、「学術論文」や「学会発表」を目標とすることで研究意欲向上や研究力の活性化などにつながると思われる。

「学術論文」や「学会発表」という形での成果報告を達成するための方策の積み重ねが教員の研究力アップに結びつくはずで、そうした研究活動を進める上で環境整備は重要で、不可欠である。研究活動に必要な環境としては、資金、人材、そして、システム(プラン)から成り立つと考えられる。

資金面では、量的充実や若手支援プランなど科研費改革が徐々に進められ、民間投資の呼び込み等を含めた戦略的基礎研究も設定されつつあるが、それらの研究費獲得が一つの目標となる。当然、獲得のためには適切な申請書作成が必須であるが、その獲得の可能性を高めるべく申請書作成のテクニック(能力)を向上させることが重要で、そのための講習やトレーニングなどが検討されるべきである。

次に人材に関しては、特別研究員事業等の研究者支援やシニア職員を含めた流動化促進等の人材育成プランが活用されることは必要である。同時に、重要となるのは、若手研究者の育成だと考えられる。そのために若手研究者の安定研究環境の創出(ポスト振替や卓越研究員制

	<p>度等)や独創的・挑戦的な研究を進めるための設備整備、また、大学院教育に対する協力等を通じた若手研究者育成 等が考えられ、それに見合った適切な対応が求められる。</p> <p>また、更に研究力向上のためのシステム(プラン)としては、新興・融合研究領域への取組の強化、新分野創成や異分野融合の推進などを踏まえた研究計画を検討し、産学官連携による研究開発投資の確保、地方創生への貢献などを実践することが有効である。更に地方大学としては、大学共同利用機関と研究拠点の連携により学術研究基盤を効率的に形成すべく対応を進めていくことが必要と思われる。</p> <p>以上のような研究環境の構成要素を適切に整備することで、「学術論文」作成や「学会発表」準備などがスムーズに行え、効率良く研究力アップにつながっていくのではないかと考える。</p> <p><b>【研究施設のレベルアップのための対策】</b></p> <p>研究施設の設備や器具を高級なものに置き換えたとしても、研究者の研究分野によっては使わないかもしれない。導入した設備と多くの研究者の研究分野が一致していないと研究施設のレベルアップとは言えない。そのため、研究者の研究内容を把握する必要がある。</p> <p>まず初めに、既に導入済みの設備や器具を把握する。次に、新しい設備の導入効果を高めるために、研究者から研究内容を調査して不足しているものを洗い出す。予算は潤沢ではないため、導入する設備や器具を選別する。このようにして徐々に設備や器具を導入していき研究施設のレベルアップを図っていく。</p> <p><b>【外部研究資金獲得のための対策】</b></p> <p>生命医科学科教員の研究を円滑に遂行するため積極的な外部資金獲得を目指す仕組みを構築する。科研費や民間の研究助成金の募集情報を随時教員に提供し、積極的な応募を促す。教員は毎年科研に応募することを目標にする。また、生命医科学科内および外部研究機関との連携をはかり効率的に研究助成を受けられるよう情報を共有する。</p>
<p>地域連携 力</p>	<p><b>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</b></p> <p>本学は延岡市唯一の大学であり、本学科において様々な研究成果や知見・技術、人的リソースを有している。これらを活かし様々な企画を実行する行動力として、延岡市を始めとした宮崎県内の臨床検査技師会を通じた研究班に参加し学術的な交流による地域の臨床検査技師間の連携を図る。また、就職関連のための地域連携として病院検査担当責任者への挨拶周りによる顔の見える関係の構築により就職斡旋のための地域連携を策定する。さらに、医療分野の講演・イベントにも積極的参加し、他医療職種の方々とも連携を図る。これらの活動を通して、地域の問題解決ならびに活性化に寄与する。</p>
<p>総合力</p>	<p>アドミッション・ポリシーは、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、学力の3要素である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を備えた豊かな人間性を持つ入学者を受け入れる。学科の「魅力と強み」、すなわちダブルライセンス教育・研究能力をアピールポイントにして、どのような学生を「受け入れ」、「学ばせ」、「卒業させるのか」を明確に可視化する。カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシー達成のために、建学の理念に基づき、専門知識・技術・態度を修得することを目的に万全のカリキ</p>

ュラムを構築する。さらに、「振り返り学習」を基盤に反転授業に力点を置く。入学者の学びたい内容、卒業までに求められる学修成果が可視化できるポリシーをさらに強化する。カリキュラム・ポリシーを通して、臨床検査技師国家試験合格率、細胞検査士認定試験合格率、さらには就職率 100%を保証する仕組みを構築する。ディプロマ・ポリシーは、大学、学部、学科等の教育理念に基づき、教養と専門性の高い知識および技術を有した臨床検査技師、細胞検査士、または生命医科学研究者として活躍できる人に学位を授与する。さらに、アセスメント・ポリシーをステップワイズ的に導入し、「自己評価と外部評価」を同時に実施すると共に、その教育目標達成度を大学レベル、学科レベル、科目レベル、学生レベルで可視化する。